



UNIC Tokyo

Dateline UN

October 2013 Vol.84

国際連合広報センター

国連を「自分事」として感じてもらいたい

私と国連との出会いは、1990年代半ば、勤務先の日本のテレビ局を退職し、ニューヨークのコロンビア大学国際関係論大学院に留学していた頃に遡ります。クラスメートに国連PKOミッションで働いたことがある学生がいたり、国連職員が実務家の講師として招かれるセミナーや国連幹部が登壇するシンポジウムが頻繁に催されたり、それまでテレビのニュースで見るばかりだった国連との距離が、その舞台裏で懸命に働く人々の姿を知ったことで、ぐっと縮まった感がありました。

その後、国連機関でのインターンシップをきっかけにJPOの試験を経て、マスコミから国連機関の世界に転身したのです。それから17年を経て、このたび国連広報センター所長に就任する機会に恵まれたことを、大変名誉に感じています。

国連広報センターは、国連にとって重要国である日本において、唯一の国連事務局直属の出先機関です。その意味で、日本と国連とをつなぐ「結節点」としての役割を担っています。これまでのマスコミでの経験と国連機関での経験とを融合させ、国連の取り組む幅広い分野の課題と活動について、わかりやすく発信することを心掛けたいと思っています。

シリア危機のニュースなどで、「国連」の名前がニュースに登場しない日はないと言っても過言ではないでしょう。でも、実際に国連がどのような役割を果たしているか、活動をしているのかは、想像しにくいかもしれません。地道な活動を忍耐強く重ねる「人」の姿と具体的な「アクション」を伝えることで、理解を広げていきたいと考えています。

国連の日本人職員の情熱と活躍についても、国際舞台で働くことを目指している人たちのロール・モデルとして、もっと多くの人たちに知っていただきたいと思っています。そして、UNアカデミック・インパクトやUNグローバル・コンパクトのネットワークなどを活用しながら、大学や企業など、民間部門との連携にも力を入れていきたいと願っています。日本で今一層重視されている「ダイバーシティ」や「女性が輝く社会」という価値観も、国連が推進するものです。

より多くの方々に国連の活動をもっと身近に、自分事としてとらえていただけるよう、どうぞ皆さんのお力をお貸しください！ ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。
(根本かおる 国連広報センター所長)



潘基文（パン・ギムン）事務総長の任命を受け、2013年8月28日付で東京の国連広報センター（UNIC）の新しい所長に根本かおるが就任しました。

INSIDE

今号は「国連で働く」をテーマにしたスペシャル号でお届けします。

国連をあなたのキャリアプランに P2-3

国連広報センターのウェブサイト、リニューアル P4

<http://www.unic.or.jp/>

国連をあなたのキャリア・プランに

根本かおる 国連広報センター所長

国連で働く日本人職員には、早くから国連を目指していた方も多くいらっしゃいますが、私が国連で働くことになったのは、偶然が重なったことです。

日本のテレビ局に報道記者として勤めていた私は、報道ウーマンとして生き残っていくために専門性を持ちたいと思い、会社を退職してアメリカの大学院に留学しました。大学院で在籍した人権・人道問題専攻科は、学生の途上国でのインターンシップを渡航費の補助をして奨励していました。時は緒方貞子さんがUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のトップとして陣頭指揮にあたっていた頃のこと。難民問題に関心のあった私は、「当たって砕ける」の信条のもと、UNHCR本部で働く見ず知らずの日本人の方に電話とファックスでお願いし、ネパール事務所で4カ月間インターンとして働かせてもらう幸運に恵まれたのです。そのおかげで、ネパールのキャンプで避難生活を送るブータン難民たちから、非常に多くのことを学ばせてもらいました。



ネパールでブータン難民11万人への援助活動を所長として統括していた頃(根本かおる提供)

この出会いが私を突き動かし、JPOの試験を経て、マスコミから国連機関の世界に転身したのです。

「2年だけだから」と日本で働く夫を説得し、トルコにJPOとして駐在したのを振り出しに、当初の夫との約束は反故にして、正規職員として国連機関の本部やアジア・アフリカ・旧ユーゴスラビアの国連の人道援助活動の最前線をはじめ、南北アメリカ地域以外のあらゆる大陸を転々と渡り歩いてきました。そこでの出会いや悲喜こもごもは、お金では買えない、大きな財産になっています。

こうした経験をもとに、日本の若者や関心のある社会人の方々に国連で働くことについて話す機会も少なからずあります。そこで一番よく受けたのは「どのようにしたら国連に入れるのですか?」という質問です。「HOW TO」に集中する質問に、私はいつもこう逆質問します – 「あなたは、何をしたいのですか?」

私が出会った国連機関で働く人々は、程度の差こそあれ、強いミッション意識、つまり「WHAT」を強く抱いています。かく言う私も、子どもの頃に4年間過ごしたドイツで、肌の色の違いから区別された体験や、社会に出てから働く女性として苦勞したこと、マイノリティーの権利について関心を持って取り組んできました。大学や大学院で国際人権法を専攻したことも、報道ウーマンとして働く女性の環境について取り組んだことも、そして国連機関で難民の権利を守るために活動したことも、そして今、国連広報センターで人権や多様性というような国連の課題について発信していることも、

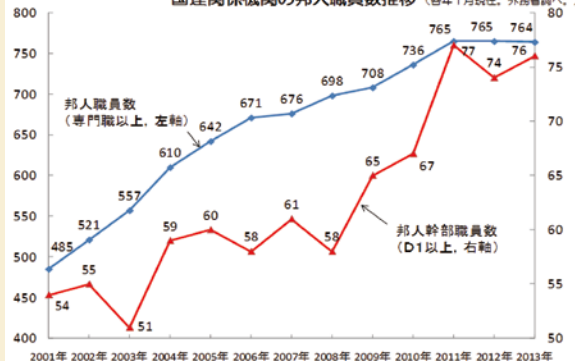
国連事務局における職員数及び「望ましい職員数」

(出典:国連資料(A/67/329) (2012.6.30現在))

順位	国名	職員数	望ましい職員数 下限~(中位点)~上限
1	米 国	274	352 ~ (414) ~ 476
2	英 国	108	109 ~ (128) ~ 147
3	ド イ ツ	103	131 ~ (154) ~ 177
4	フ ラ ン ス	102	102 ~ (120) ~ 137
5	イ タ リ ア	86	84 ~ (99) ~ 114
6	カ ナ ダ	74	56 ~ (66) ~ 76
7	中 国	65	82 ~ (97) ~ 111
8	日 本	60	202 ~ (238) ~ 273
9	メ キ シ コ	46	44 ~ (52) ~ 60
10	ロ シ ア	45	33 ~ (39) ~ 45
	その他	1,282	
	合計	2,245	

(注)本表中の「職員数」は、地理的配分の原則が適用されるポストに勤務する職員数であり、全体の職員数ではない。全体の職員数の合計は12,289名で、日本は204名となっている(専門職以上、通訳・翻訳等の語学ポストを含む)。

国連関係機関の邦人職員数推移 (各年1月現在、外務省調べ)



働く組織は違って私にとっては全て一つの線の上にあるように感じています。国籍も言語も宗教も文化も異なるスタッフをまとめてチーム力を発揮するには、このWHATがしっかりあってビジョンを明確に示せることが、いかなる現場でも求められます。そして、多国籍・多文化のチームが一つの方向にまとまって力を出せた時ほど、やりがいを感じさせてくれる場面はありません。



中満 泉 国連平和維持活動 (PKO) 局 アジア・中東部長。コンゴ民主共和国・東部にて (本人提供)

さらに、日頃日本で働いていると気付かないかもしれませんが、日本で当たり前とされていることが、実は国連で大変な技能として重宝されます。例えば、提出の期日を守る。独りよがりです決めるのではなく、関係者と調整する。段取りを考え、役割分担を明確にする。また、国連はややもすると欧米系中心の組織と思われがちですが、国連の現場となるのは圧倒的に非欧米圏の途上国や紛争国の現場です。そこで日本人の持つ思いやりや中庸の精神にもとづく感性を存分に発揮することができれば、高く評価されます。

私自身、アフリカのブルンジ、旧ユーゴスラビアのコソボ、ネパールといった民族対立や紛争で傷ついた地域で働いた際には、この地域の紛争に加担せず、焼け跡から短期間で復興を遂げた国として尊敬を集める日本出身者として、対立する民族双方から中立的な存在として信頼を受けて仕事をすることができました。日本人であることに対して、これほどありがたく思ったことはありません。いかがですか？ 国連での仕事

がちょっと身近に感じられませんか？ 私自身が民間企業出身であることもあり、民間で専門分野を培った人、その発展形として国連を職場とすることをイメージしていただけましたらと思います。あらゆる国連の組織に広報のみならず、財務、人事、法務、IT、調達などの部門があり、即戦力

となる人材を求めています。民間部門で養った専門性をまさに活用できる分野です。あなたの才能と可能性を地球規模課題の解決という「国際益」「地球益」に結びつけることに、是非トライしてみてください。「WHAT」の意識を強く持っていれば、自ずといろいろな世界が開けてくると、私は自分の経験から信じています。

そして、HOW TO が学べる様々な機会については、国連・国連諸機関も、日本政府も様々な場を提供しています。その第一歩として、国連・国連諸機関が意欲のある日本人を対象に開く「人事ミッション」に参加するとともに、外務省国際機関人事センター (<http://www.mofa-irc.go.jp/>) や国連広報センターのウェブサイト (<http://www.unic.or.jp/>) を詳しく調べてみてください。私が国連機関に入った頃は、このようなサービスはほとんどありませんでしたから、羨ましい限りです！ 多くのヒントが学べることと思いますよ。



山下真理 国連政務局アジア・太平洋部部長。写真は2010年にネパールの元反体制派の武器収容所を視察した際の様子 (本人提供)

インターンとして、国連を中から体験してみる

国連広報センターをはじめ、日本に拠点を持つ国連機関の多くがインターンを受け入れています。根本がおる所長も、山下真理前所長も、インターンを経て国連職員になっています。インターンシップをぜひ体験してみは？



～インターン経験者の感想から～

“生きた国連とその仕事について垣間見ることができた”
 “世界の情勢や各紙の報道姿勢の違いを知ることができたことは、ジャーナリズム専攻の自分にとって大きな糧だった”
 “同じ分野に興味を持っている仲間に出会い、留学する上でとても感化された”

http://www.unic.or.jp/working_at_un/internship/

国連だより

ウェブサイト、変わりました！

ご存知ですか？ 国連広報センターの公式ウェブサイト（www.unic.or.jp）が8月下旬に大幅リニューアルしました。国連情報をより容易に入手していただけるよう、サイト内の回遊性の向上を図るとともに、国連に関する理解を一層深めていただこうと、様々なコンテンツを新規に追加し掲載しています。「国連で働く」では、国連の採用に関する専門サイト UN Careers から、国連職員に求められる資質や採用プロセスなどを日本語でご案内しています。ぜひ一度ご覧ください。

新しいウェブサイトでは、国連に関する様々な情報を、「基本情報」、「主な活動」、「資料・映像」、「ニュース・プレス」、「国連で働く」の5つの主要なカテゴリーに分類しています。

◆基本情報

総会、安全保障理事会（安保理）、経済社会理事会（経社理）など国連の主要機関や、WHO やユネスコなどの専門機関を含めた、国連システムに関する基礎的情報をお届けします。日本に事務所を構える国連機関も紹介しています。

◆主な活動

「国連の基礎知識 2012年改訂版」（国際連合広報局作成、関西学院大学総合政策学部発行、関西学院大学出版会発売 ISBN978-4-86283-115-6）のテキスト全文を掲載し、平和、開発、人権、人道、環境、軍縮、国際法などにまたがる幅広い国連活動に関する情報を提供します。

◆資料・映像

「資料」のカテゴリーにおいては、国連の総会、安保理、経社理、人権理事会などの決議 / 声明、事務局文書など、国連の公式文書を邦訳し、機関ごとに分類して掲載するとともに、それぞれの機関の手続き規則も邦訳し、



掲載しました。また、「映像」では、国連本部（広報局）や国連諸機関が制作したビデオを YouTube の UNIC チャンネルを通じて日本語字幕付き（一部吹き替え）で紹介しています。国連事務総長のメッセージをはじめ、平和と安全、人権、開発や平和維持活動など様々な映像もご覧いただけます。

◆ニュース・プレス

記者会見やイベントなどのお知らせ、事務総長メッセージや声明、演説、国連の取り組みに関する背景資料など、ニュース性の高い最新情報（日本語）をわかりやすく整理・分類してお届けします。

◆国連で働く

将来、国連で仕事をしたいと考えている方のためのページです。国連の採用に関する専門サイト UN Careers から、国連職員に求められる資質や採用プロセスなどをお届けします。

この他、新たに「用語集」のコーナーを設け、拒否権、ミレニアム開発目標（MDGs）など、国連に関連する用語を短い言葉でわかりやすく説明しています。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学本部ビル 8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic.tokyo@unic.org